

2023～2025 宮崎県立みやざき中央支援学校 校内課題研究

「今と将来をよりよく生きる子どもの育成を目指す教育の在り方

～子どもの学びを確かにするカリキュラム・マネジメントの検討～」

研究成果物

年間指導計画活用マニュアル



目次

01

はじめに

P3

作成の目的と対象、用途

02

理論編

P4～P7

年間指導計画について概要説明・見方

03

実践編

P8～P9

授業づくりの手順

04

資料編

P10～P19

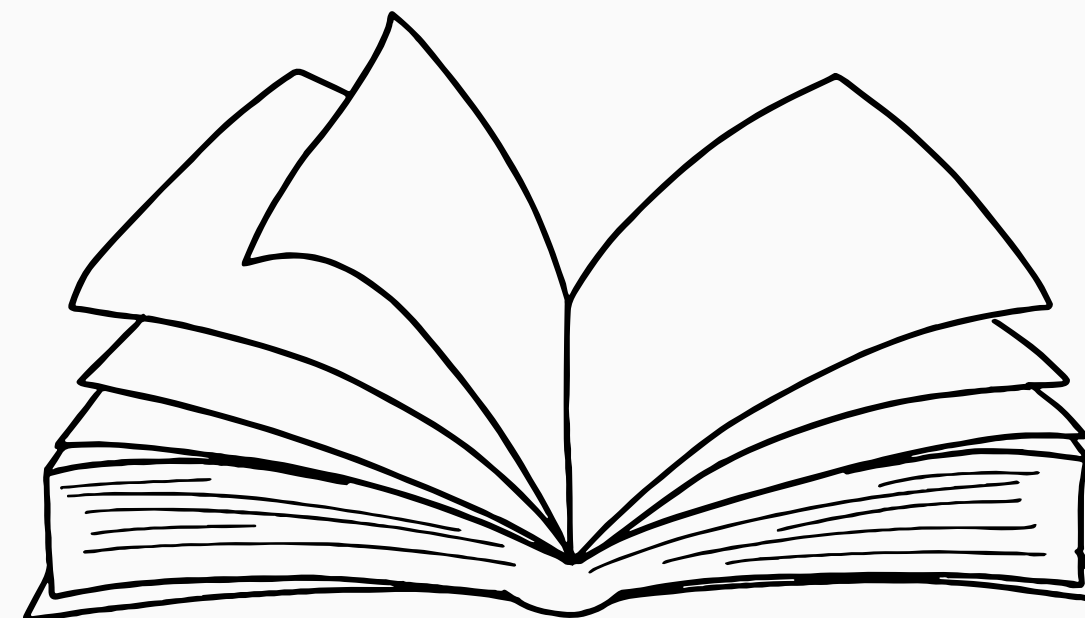
年間指導計画を活用した授業実践例

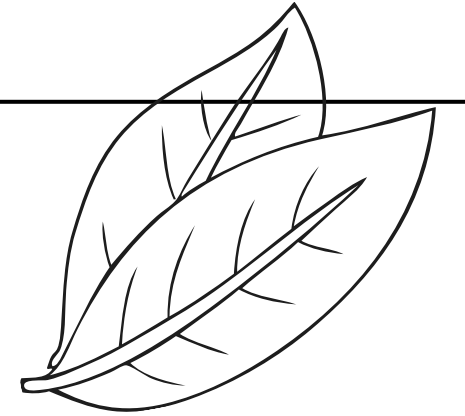
05

Q&A

P20～P24

よくある質問とその回答





本マニュアル及び年間指導計画は、
小学部から高等部までの学びの連続性を重視した一貫性・系統性のある指導につなげる
ことを目的に作成しました。

 用途

本マニュアルは、年間指導計画の意義や見方、具体的な活用方法等を記載しています。授業づくりの際に、適宜参照してください。計画はあくまで目安です。対象の児童生徒の実態に応じてご活用ください。

理論編

年間指導計画について概要説明

特別支援学校では、児童生徒一人ひとりの実態に応じた指導を行うために、年間を通して計画的に学習内容を組み立てることが大切です。その中心となるのが「年間指導計画」です。

年間指導計画とは、学校の教育課程を一年間の流れとして整理し、どの領域や教科で、どのような力を育てるのか、どのような学習内容に取り組むのかを示したものです。

特別支援学校の場合、国語や算数などの教科だけでなく、生活に必要な力や自立に向けた力、働く力なども含まれるため、内容は多岐にわたります。

年間指導計画があることで、日々の指導に迷いが生じた時に立ち返ることができ、また児童生徒の成長を長い時間軸で見守ることができます。

特別支援教育に携わる方にとって、年間指導計画を理解し活用することは、指導を行う上で大きな助けとなります。

年間指導計画の役割

・指導の見通しをもつための手がかりになること

一年間で育てたい力を見通すことで、単元や授業づくりが進めやすくなります。

・児童生徒に応じた指導を行う基盤になること

個別の指導計画や個別の教育支援計画に目標を落とし込む際の“よりどころ”になります。

・校内で共通理解を図るための土台になること

学部間や学年、教員間での話し合いや引き継ぎにも使われます。

・評価と改善につなげる材料になること

できたことや伸びたことを見取る視点が明確になり、次年度に活かすことができます。

学習指導要領には以下のように記載されています！

・「各学校においては、次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を活かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。」

・「学年ごとあるいは学級ごとなどに、指導目標、指導内容、指導の順序、指導方法、使用教材、指導の時間配当等を定めたより具体的な計画である。」

・「指導計画には、年間指導計画や2年間にわたる長期の指導計画から、学期ごと、月ごと、週ごと、単位時間ごと、あるいは単元、題材、主題ごとの指導案に至るまで各種のものがある。」



● 本校の年間指導計画について

下の図のように整理しました！

「どの内容を」

「どの時期に」

「どのくらいの授業時数で」

「どのような学習活動を通して」



- ・各教科、領域別に、小学部、中学部、高等部の縦割りの研究班を編成し、年計を作成しました！
- ・本校に在籍する児童生徒に対して幅広く適用することができるように、大まかな流れや要点を示しています。
- ・学年ごとに作成していますが、対象の児童生徒の学習の習得具合や特性、興味関心等の実態に応じてご活用ください。

本校の年間指導計画について、小学部1年生「国語」を例にどこに何が記載されているのか説明します。

学部・学年・教育課程・教科名・総時数・段階

学習指導要領記載の3つの柱

※各教科を合わせた指導については、
年間の目標の設定はしない。

学部	学年	教育課程	教科等
小学部	1	Ⅱ	国語

目標	知識及び技能	日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。
	思考力、表現力、判断力等	言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。
	学びに向かう力、人間性等	言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。

時期	単元名（Ⅱ時数）	具体的な指導内容	教材教具等	学習指導要領に示されている指導内容
1学期	「お話しよう」(2)	○言葉の使い方、聞くこと、話すこと ・教師と一緒に、登場人物の模倣をして、簡単な言葉で応答したり、手を挙げている身振りをしたりする。 ・教師や友達をやりとりしながら、声や動きの大きさ、体の向きなどを変えて呼び掛ける。 ・乗り物や生き物の具体的な名称を言ったり、乗り物や風景に注目して音や様子を表す言葉を音声模倣したり、言葉で伝え合ったりする。 ・友達と気付いたことや表現したことを発表し合う。	こくご☆ 「おーい」 P.4～10 ・絵、写真	知・技ア(ア) A 聞く・話すイ
	「はるのことば」(3)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気づき、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.11～14 ・具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) C 読むア
	「ぼくのいちにち」(3)	○言葉の特徴や使い方、書くこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・身近な人との関わりを思い浮かべたり、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 ・見聞したことや感じたことなどを具体物や絵、写真などを手がかりにして想起したり、相手に伝えたいことを考えたりする。	・具体物、絵、写真 こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 ・具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) B 書くア
	「なつのことば」(3)	○言葉の特徴や使い方、読むこと ・言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 ・教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気づき、注目する。 ・イメージした事物や事柄を表す言葉を探そうとする。 ・相手に届くように声の大きさを変えたり言葉を繰り返したりして伝えようとすることができる。	こくご☆ 「はる なつ あき ふゆ」 P.34～35 ・具体物、絵本、写真	知・技ア(イ) C 読むア

どの内容を

どの時期に

どのくらいの時数で

どのような学習活動を通して

教材教具、教科書等

「単元名」と(時数)

※各教科等を合わせた指導の場合、
課程ごとに取り扱う内容や時数が
違うため、それぞれの時数を
記載している。

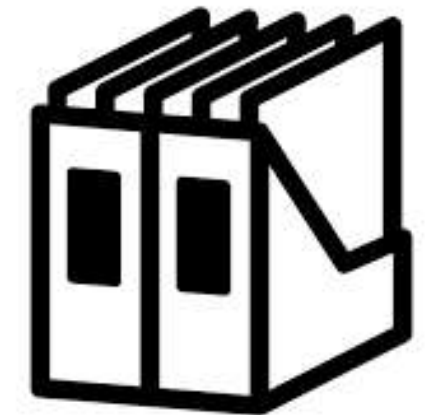
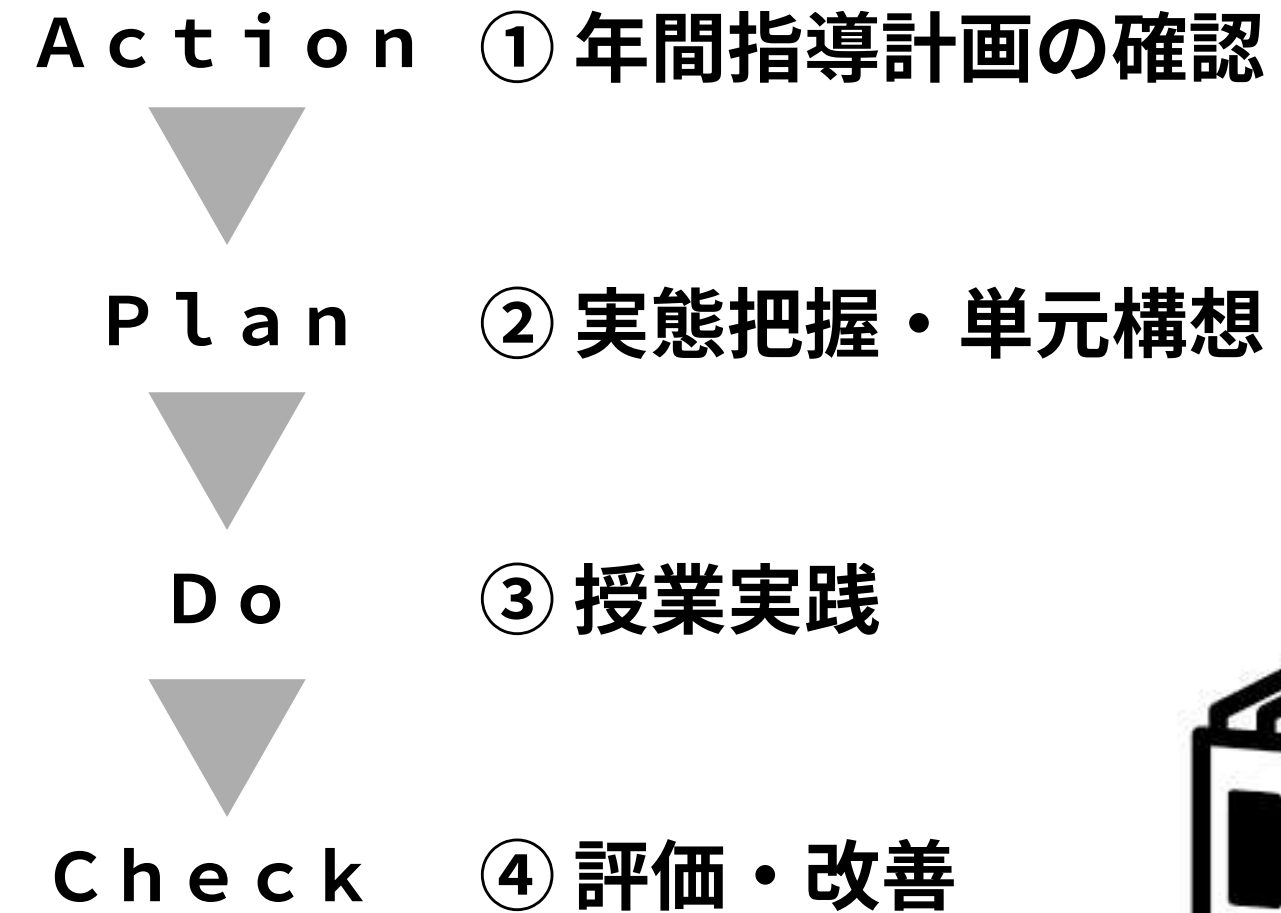
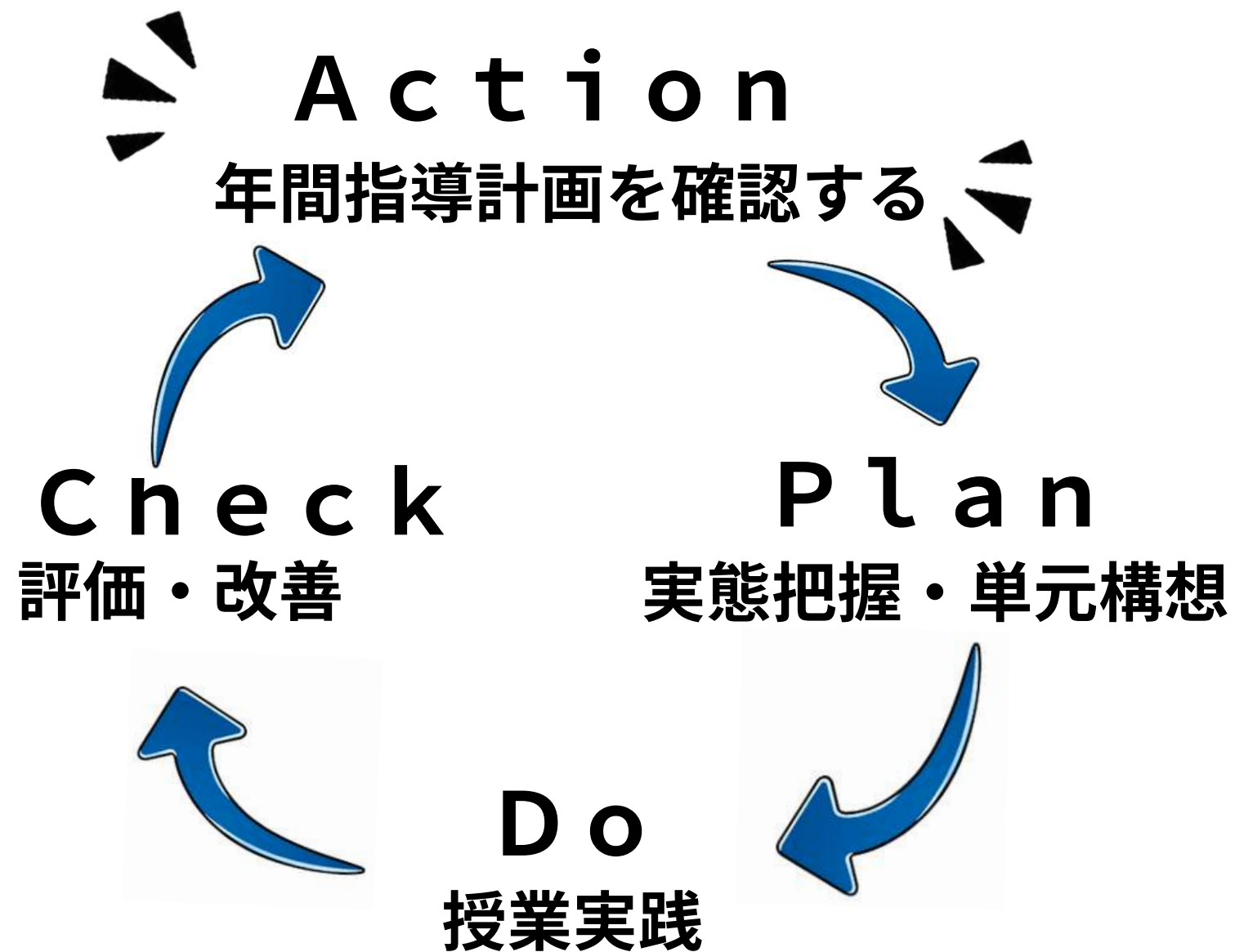
学習内容・具体的な指導内容

学習指導要領に示されている指導内容

各題材、単元で取り扱う内容を記号で表記している。

実践編

授業づくりの手順



※ 「P→D→C→A」を繰り返すことで、年間指導計画はより実態に即した生きた計画となり、授業の質の向上につながっていきます。

①年間指導計画の確認→これから計画する単元や題材がどのような学習をするのか確認します。

- 授業づくりの出発点として、年間指導計画を確認する
- これから扱う単元（題材）の学習内容を把握する
- 単元と他単元・行事との関連、教科の目標や内容を確認する
- 前学年までの学びと、今後の学習へのつながりを把握する

②実態把握・単元構想→「何が身に付いているのか」や「何を身に付けさせたいのか」について整理し単元構想を練ります。

- 児童生徒の実態を把握し、単元構想を立てる
- 学習指導要領を確認し、「身に付けさせたい力」を明確にする
- 単元・題材計画シートを活用し、学習内容・方法・到達目標を整理する
- 目標達成の姿を具体化し、評価の場面や方法を考える
- 個々の実態を踏まえ、多くの児童生徒に対応できる目標を設定する

③授業実践→単元・題材計画シートを基に授業実践を行います。

- TTで授業を行う際は、作成したシートを基に授業内容を共有する
- 共通理解を図った上で、授業実践を行う
- 授業の状況に応じて、その場で内容を柔軟に変更する
- 前時までの学習状況を踏まえ、単元途中で計画を修正する
- 授業中は、児童生徒の変容を観察・記録する

④評価・改善→授業後に学びの様子を振り返り、次の授業や年間指導計画の改善につなげます。

- 児童生徒の学習状況と授業者自身の指導を評価する
- 目標に対する児童生徒の成長の様子を振り返る
- 支援や指導方法が適切であったかを検証する
- 評価結果を基に、次の単元（題材）の計画を改善する
- 次年度の年間指導計画の改善につなげる

資料編

年間指導計画を活用した授業実践例



年間指導計画を活用した授業実践例

令和7年度の校内研究では、年間指導計画を活用して授業づくりを行いました！

単元(題材)構想では、「単元題材計画シート」を作成しました。

シートのどこに何が記載されているのか説明します。

年間指導計画を参考に、単元(題材)名や総時数、年計記載学部学年を記載

1. 題材の概要

教科・領域		期間	
題材名		対象学年等	
題材の総時数		年計記載学部学年	
授業形態		授業者	

2. 題材計画等

時数	主な学習活動	教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	学習指導要領に示されている内容		
			学部	段階	内容
		どのように学ぶのか			何を学ぶのか
	何ができるようになるのか				

主な学習内容を
箇条書きで記載

年間指導計画を参考に、
取り扱う教科用図書や
教材教具等を記載

年間指導計画を参考に、取り扱う各教科の内容を記載

年間指導計画を活用した授業実践例 「国語」

1. 単元・題材の概要

教科・領域	国語	期間	令和7年5月1日～5月8日		
単元・題材名	インタビューをしよう②	対象学年等	高等部	3年	Ⅱ課程
単元・題材の総時数	4時間	年計記載学部学年	高等部	3年	
授業形態	習熟度別グループ	授業者			

2. 単元・題材計画等

時数	主な学習活動	教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	学習指導要領に示されている内容			
			学部	段階	内容	
1/4	相手や場面に応じた言葉遣い	・くらしに役立つワーク国語p28、29、56～62 ※丁寧な言葉遣いや敬語について理解できるようにする。	高	2	知・技ア(ア)	社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
					知・技ア(イ)	話し言葉と書き言葉の違いがあることに気付くこと。
					知・技ア(カ)	日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。
1/4	インタビュー内容を話し合う インタビュー時の正しい言葉使い	・ワークシート・タブレット端末 ※話し合いでは、それぞれの考えを伝えられるようにする。 ※練習の様子をタブレット端末に記録し、振り返ることができるようにする。	高	2	A聞く・話すア	社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的や自分が聞きたいことを中心に捉え、その内容を捉えること。
					A聞く・話すオ	互いの立場や意図を明確にししながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
1/4	インタビュー	・ワークシート・タブレット端末 ※インタビューの様子を録音し、メモをと内容を確認できるようにする。	高	2	A聞く・話すア	社会の中で関わる人の話などについて、話し手の目的や自分が聞きたいことを中心に捉え、その内容を捉えること。
1/4	インタビューのまとめ	・ワークシート・タブレット端末 ※インタビューでのメモと録音したデータを使い、内容を正確にまとめられるようにする。	高	2	B書くア	目的や意図に応じて、書くことを決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
					B書くウ	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

年間指導計画を活用した授業実践例 「算数・数学」

1. 単元・題材の概要

教科・領域	数学	期間	令和7年5月1日～5月8日		
単元・題材名	分数と小数、整数の関係	対象学年等	高等部	3年	Ⅱ課程
単元・題材の総時数	2時間	年計記載学部学年	高等部	3年	
授業形態	習熟度別グループ	授業者			

2. 単元・題材計画等

時数	主な学習活動	教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	学習指導要領に示されている内容		
			学部	段階	内容
1/2	分数の表し方	・くらしに役立つ数学p12、13 ・アプリ「分数表現」 ・くらしに役立つワーク数学p13、15 ・ワークシート ※アプリ「分数表現」を使って、分数のしくみを視覚的に捉えられるようにする。	高	2	A数と計算イ(ア)㊦ 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。
1/2	大小の比較 通分	・くらしに役立つワーク数学p14 ・ワークシート ※大きさの等しい分数の表した方は幾通りもあることに気付かせる。 ※通分することで、分母の異なる分数の大小を比較できることを理解できるようにする。	高	2	A数と計算イ(ア)㊧ 分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。

年間指導計画を活用した授業実践例 「保健体育」

1. 題材の概要

教科・領域	陸上競技	期間	令和6年11月3日～11月22日
単元・題材名	短距離走・投擲	対象学年等	中学部 3 年 I・II 課程
単元・題材の総時数	8	年計記載学部学年	学部 3 年
授業形態	第3学年	授業者	

2. 題材計画等

時数	主な学習活動	教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	学習指導要領に示されている内容		
			学部	段階	内容
4/8	・準備運動 ・ストレッチ ・ラダートレーニング ・変形ダッシュ ・50m 測定（全力走） ・バトンパスの練習 ・バトンパスリレー ・リレー（1人約100m）	・ラダー ・ホイッスル ・ラインカー ・ストップウォッチ・バトン ※オリンピックや陸上大会の動画を視聴し、生徒の意欲を高める。また、走り方のポイントやバトンパスの方法等視聴することで、具体的なイメージをもてるように支援する。 ※友達の前を走っているところを動画でとり、よかったところや気づいたこと、感想を伝える場面をつくる。 ※生徒の障がいの状態に合わせて、走る距離やバトンの種類を変更する。 ※適宜休憩を挟み、水分補給の確保を行う。	中	I	C 陸上運動ア C 陸上運動イ C 陸上運動ウ ・陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 ・陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしてしたことを他者に伝えること。 ・陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動すること。
4/8	・準備運動 ・ストレッチ ・ボール投げ ・ボール投げサーキット	・ターボジャブ ・タオル ・的当てボード ・ディスクゲッターフープ ・ペットボトル ※オリンピックや陸上大会の動画を視聴し、生徒の意欲を高める。また、走り方のポイントやバトンパスの方法等視聴することで、具体的なイメージをもてるように支援する。 ※友達の前を走っているところを動画でとり、よかったところや気づいたこと、感想を伝える場面をつくる。 ※投げる順番や方向等、安全面気をつけて行う。 ※生徒の障がいの状態に応じて、投げる道具の工夫を行う。（柔らかいボール、タオル、新聞紙を丸めたボール等）	中	I	C 陸上運動ア C 陸上運動イ C 陸上運動ウ ・陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。 ・陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしてしたことを他者に伝えること。 ・陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動すること。

年間指導計画を活用した授業実践例 「音楽」

1. 題材の概要

教科・領域	音楽	期間	9月(1か月間)
単元・題材名	りずむにあわせて	対象学年等	小学部 3年 I・II 課程
単元・題材の総時数	6	年計記載学部学年	小学部 3年
授業形態	学年合同	授業者	

2. 題材計画等

時 数	主な学習活動		教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	学習指導要領に示されている内容		
				学部	段階	内容
6	歌唱	・やきいもグーチーパー☆☆ ・ふしぎなポケット☆☆ ・いもほれほーれ ・きのこ☆☆ ・やまのおんがくか☆☆	・おんがく☆☆・タブレット端末・モニター ・歌詞カード・イラスト・じゃんけんカード 等 ※歌詞に合わせてグーチーパーの動作を見せ、模倣できるようにする。 ※きのこの他に、秋に関連する画像やイラストを見せ、興味関心を高める。 ※登場するキャラクターになりきって歌うために、ペープサートやお面を用いる。 ※向かい合って歌い、「いかがです」の後にお互いの感想を言い合う。	小	2	(ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧について気付くこと。 ㊦ 曲の特徴的なリズムと旋律 ㊧ 曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉 (ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の㊦から㊧までの技能を身に付けること。 ㊦ 範唱を聴いて、曲の一部分を模唱する技能 ㊧ 自分の歌声に注意を向けて歌う技能 ㊧ 教師や友達と一緒に歌う技能
	身体表現	・やきいもグーチーパー☆☆ ・ほれほれもぐら ・きのこ☆☆	・おんがく☆☆ ※手だけでなく、足や全体を使った身体表現を取り入れたじゃんけんをする。 ※2人組になって身体表現を行う。 ※ノコノコやニョキニョキ等の歌詞に合わせて教師が簡単な身振りを示し、曲の面白さに興味をもてるようにする。	小	2	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。 (イ) 次の㊦及び㊧について気付くこと。 ㊦ 拍や曲の特徴的なリズム ㊧ 曲名と動きとの関わり (ウ) 思いに合った動きで表現するために必要な次の㊦から㊧までの技能を身に付けること。 ㊦ 示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能 ㊧ 音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす技能 ㊧ 教師や友達と一緒に体を動かす技能

年間指導計画を活用した授業実践例 「家庭科」

1. 単元・題材の概要

教科・領域	家庭科	期間	9月(1か月間)
単元・題材名	ボタン止め	対象学年等	高等部 1年 II 課程
単元・題材の総時数	2	年計記載学部学年	高等部 1年
授業形態	II 課程 2学級合同	授業者	

2. 単元・題材計画等

時数	主な学習活動	教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	学習指導要領に示されている内容		
			学部	段階	内容
2	・裁縫道具について ・玉結び ・玉止め	・くらしに役立つ 家庭 P76～78 ・縫い針 ・手縫い糸 ・糸切ばさみ ・糸通し ・タブレット端末 ・ワークシート等 ※裁縫道具の名称や使用方法について、写真や動画を用いて説明する。 ※糸の長さの目安は、片手を伸ばした長さであることを伝える。 ※玉結びの際には、縫い始めが抜けないようにすることを伝える。 ※玉止めの際には、縫い終わりの糸がほどけていないか確認するように伝える。	高	I	ウ 衣服の手入れ 衣服の手入れに関わる学習活動 (7) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。 (イ) 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。
	・ボタンつけ	・くらしに役立つ 家庭 P76～78 ・縫い針 ・手縫い糸 ・糸切ばさみ ・糸通し ・タブレット端末 等 ・2つ穴ボタン ・4つ穴ボタン ・タブレット端末 ・ワークシート等 ※ボタンがとれた時、どうするかについて考えさせる。 ※目的にあった縫い方があることを知らせる。 ※糸は2本どり、ボタンには裏表があることを伝える。			

年間指導計画を活用した授業実践例 「特別活動」

1. 題材の概要

教科・領域	特別活動	期間	令和7年4月25日		
単元・題材名	「学級活動(6年生になったよ)」	対象学年等	小学部	6年	Ⅱ 課程
単元・題材の総時数	1	年計記載学部学年	小学部	6年	
授業形態	学級	授業者			

2. 題材計画等

時数	主な学習活動	教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	教育課程編成資料集 (特別支援教育室作成 P71～)		
			学部	内容	
1	・新しい学級の友達 や先生の自己紹介 ・係決め	・自己紹介カード(手本用・作成用) ・係分担表 ・イラストや画像、動画 ※自己紹介カードを作成し、自分の好きなことや1学期頑張りたいことを視覚化する。 ※係決めでは、具体的に何の係があるのかを伝え、自分がやってみたい係を決めさせる。やりたい係が被った際は、教師を交えて話し合いて決める。	小	学級活動	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画 ア: 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ: 学級内の組織づくりや役割の自覚 ウ: 学校における多様な集団の生活の向上

※R7作成の「単元題材計画シート」保存場所：SV03—free—各校務部資料—研修部—R7校内研究

年間指導計画を活用した授業実践例 「日常生活の指導」

1. 単元の概要

教科・領域	日常生活の指導	期間	年間を通して		
単元・題材名	着替え(主に朝と帰り)	対象学年等	小学部	5年	I 課程
単元・題材の総時数	350	年計記載学部学年	小学部	3年	
授業形態	個別	授業者			

2. 単元計画等

時数	主な学習活動	教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	学習指導要領に示されている内容			
			教科	学部	段階	内容
	・適切な場所・環境で着替えを行う。	・更衣場所の提示・鏡 ※更衣するときにはカーテンをし、指示された更衣場所での着替えを行うようにする。	生活	小	1	ア基本的(イ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。
			国語	小	2	A 聞く・話すイ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること
	・できるだけ一人で着替えを行う。	・更衣場所の提示・鏡 ※一人で着替えを行うように見守る。 ※ボタン等手伝いが必要な場面では、教師にその旨伝えるようにする。	生活	小	2	ア基本的(ア) 必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする事。
			生活	小	2	ア基本的(イ) 身近な生活に必要な身辺処理に関する基本的な知識や技能を身に付けること。
			国語	小	1	A 聞く・話すウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。
	・着替え後、衣服を整える。	・鏡 ※シャツが出ている等のときは、言葉掛けを行う。	生活	小	2	ア基本的(ア) 必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする事。
			生活	小	2	ア基本的(イ) 身近な生活に必要な身辺処理に関する基本的な知識や技能を身に付けること。
			国語	小	2	A 聞く・話すイ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること
	・更衣の順番を意識しながら、着替えを行う。	・更衣場所の提示・着替え手順カード・鏡 ※更衣の順番(上衣→下衣)を意識し、着替えを行うよう、手順カードを示したり、言葉掛けを行ったりする	生活	小	2	ア基本的(ア) 必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする事。
			生活	小	2	ア基本的(イ) 身近な生活に必要な身辺処理に関する基本的な知識や技能を身に付けること。
			国語	小	2	A 聞く・話すイ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること

年間指導計画を活用した授業実践例 「生活単元学習」

1. 単元の概要

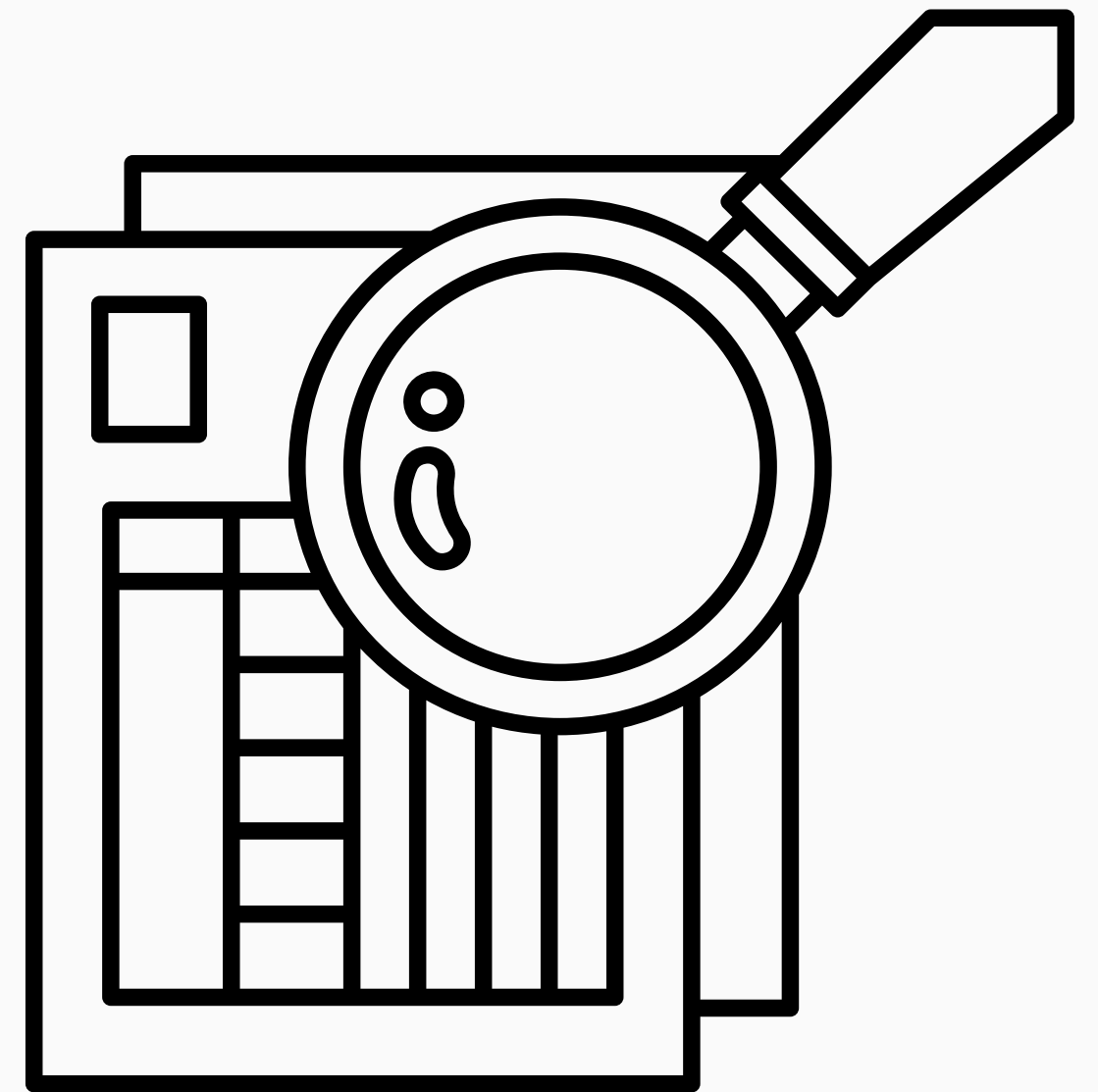
教科・領域	生活単元学習	期間	令和7年6月2日～23日
単元名	「雨の日の過ごし方」	対象学年等	小学部 1年 II 課程
単元の総時数	7	年計記載学部学年	小学部 1年
授業形態	II 課程合同	授業者	

2. 単元計画等

時 数	主な学習活動	教科用図書・教材教具等 ※指導上の留意点	学習指導要領に示されている内容				
			教科	学部	段階	内容	
1/7	梅雨と雨 ・天気調べ ・梅雨や雨に関する絵本や歌	・天気カレンダー ・ワークシート ・絵本「あめぼったん」 ・歌「あめふりくまのこ」 ※手本のカレンダーを示して、数字シールを貼れるように工夫する。 ※動植物の名称を写真やイラストとマッチングできるようにする。	生活	小	I	サ生命・自然(イ)	身の回りの生命や自然について関心をもつこと。
			国語	小	I	読書(エ)	読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに 興味をもつこと。
			算数	小	3	数量の基礎㉑	20 までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり 書き表したり、数の大小を比べたりすること。
2/7	雨具の使い方 ・雨具の名称や安全な使い方 ・ポンチョづくり	・傘 ・カッパ ・長靴 ・ビニール袋 ・油性ペン ・ビニールテープ ※動画や写真を用いて危険性がイメージできるようにする。	生活	小	I	イ安全(ア)	身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。
			図工	小	I	表現(イ)	身の回りの自然物などに触れながら、切る、ぬる、はるなどすること。
2/7	梅雨の時期の自然 ・図鑑、インターネットでの調べ学習	・図鑑 ・パソコン ・ワークシート ・実物(アジサイ・かたつむり) ※校内探検をして梅雨の時期の動植物を見付けに行く。	生活	小	I	サ生命・自然(ア)	身の回りにある生命や自然に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。
			国語	小	I	書くことイ	自分の名前や物の名前を文字で表すことがで きることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。
2/7	雨の日の過ごし方(室内あそび) ・折り紙、トランプ、ボウリング	・折り紙 ・トランプ ・ボウリング ・ワークシート ※ボウリングのピンの数を数えられるように数字カード上にピンを並べるようにする。	生活	小	I	エ遊び(ア)	身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。
			算数	小	I	数と計算ア㉑	5までの範囲で数唱をすること。

Q & A

よくある質問とその回答



Q&A

Q1 年間指導計画通りに学習を進めなければならないのですか？

年間指導計画は「必ずその通りに進めるべき固定的な計画」ではなく、「指導の見通しをもつためのガイド」として位置付けています。児童生徒の実態や学習の進み具合に応じて、内容の精選・順序の調整・活動形態の変更など柔軟に対応して構いません。

年間指導計画を基盤にしつつ、常に目の前の児童生徒に合った指導を優先してください。

Q2 中学部ですが、小学部の年間指導計画を活用しても良いのですか？

児童生徒の学びの段階が小学部の内容に適している場合は、学部にとらわれず活用して構いません。年間指導計画は「学年（部）で区切る」ものではなく、「学びの段階に応じて選択できる教材」として作成しています。

個別の実態に応じて、必要な単元や活動を柔軟に取り入れてください。

Q3 年間指導計画はいつ見るものですか？

主に以下のタイミングで活用します。

- 年度はじめに見通しをもつとき
- 授業づくりや週案を作成するとき（指導内容の確認）
- 授業後の振り返りをするとき（習得状況を確認し次につなげるため）
- 個別の指導計画を作成、確認するとき

※日常的に参照することで、指導の一貫性や系統性を確保できます。

Q&A

Q4 年間指導計画を細かく見ると、教科によって記載の仕方が違います。なぜですか？

各教科の目標や内容構成、学習の特性が異なるため、分かりやすく実践しやすい形式で記載しているためです。

教科の特性を踏まえて構成を工夫しています。

Q5 年間指導計画とは別の学習内容を行いたいのですが、良いのでしょうか。

児童生徒の実態や教育的ニーズに応じて、新しい内容を計画・実施することは可能です。

その際、年間指導計画のどの目標・観点と関連するか、学部全体の系統性を損なわないか、他学年での学習との重複や抜けがないか等を確認したうえで、指導内容として位置付けてください。

Q6 「調べてみよう」は生活科の内容が中心となります。合わせた指導として扱っても良いのですか。

合わせた指導として実施して構いません。

生活単元学習は、児童生徒の生活や興味から学びを広げる教科であり、複数教科の内容が横断的に関連することが多くあります。「調べる」「実験する」「比較する」などの活動は生活科や理科的な要素が多く含まれますが、本校の年間指導計画では、他教科の学習内容も含まれた学習内容になっていますので、合わせた指導として扱って構いません。

Q & A

Q7 せい教育は特別活動と保健体育の両方にあります。理由がありますか？

せい教育は、知識の理解だけでなく、自己尊重感、人との関わり方、集団生活での決まりや人権意識など、多面的な学びが必要な内容です。

そのため、

- 保健体育：身体の成長、健康、性に関する知識の理解等
- 特別活動：人との関係づくり、社会性、ルール、主体的な意思決定等

というように、学習内容の性質によって両方に位置付けています。複数の視点から丁寧に扱うことで、児童生徒が安心して学べる環境をつくることを目的としています。

Q8 年計記載学部学年は学習指導要領とどのように関連付けていますか。

1 2 年間の学習の連続性をもたせることを目的に、各学部学年を以下の段階に分けて作成しています。

小各部 1 ・ 2 年生…小学部 1 段階	中学部 1 年生…中学部 1 段階	高等部 1 年生…高等部 1 段階
小学部 3 ・ 4 年生…小学部 2 段階	中学部 2 年生…中学部 1 ・ 2 段階	高等部 2 年生…高等部 1 ・ 2 段階
小学部 5 ・ 6 年生…小学部 3 段階	中学部 3 年生…中学部 2 段階	高等部 3 年生…高等部 2 段階

Q&A

Q9 年間指導計画には単元ごとに目標が記載されていません。なぜですか？

本校の年間指導計画では、学習指導要領に示されている各教科の「内容」を、3つの柱に沿って整理し、記号と下線で示しています。

文部科学省の「学習評価参考資料」において、「内容の記載は、そのまま学習指導の目標となりうる」と示されていることから、本校では各単元・題材ごとに改めて目標文を設定せず、学習指導要領の内容を記載することにしていきます。

また、記号の下線の種類を分ける(①知識及び技能…直線 ②思考力・判断力・表現力…波線 ③学びに向かう力・人間性等…点線)ことで、どの内容が3つの柱のどの観点に関わるものかを把握しやすくし、指導や評価に活用できるよう工夫しています。

Q10 年間指導計画に記載されている内容は漏れなく行う必要があるのですか？

年間指導計画は、学習指導要領に基づき、各教科の内容を系統的・計画的に指導するための指針として作成しています。そのため、特に示す場合を除いて、各教科に示されている全ての項目について、年間を通して網羅的に扱うことを前提としています。※特に示す場合とは、重複障害者等に関する教育課程の取扱いのことです。

一方で、児童生徒の実態や学習の進捗、行事等の状況により、計画通りの実施が難しい場合もあります。そのような場合には、学習のねらいを踏まえた上で、内容の扱い方や時期の調整、重点化を行うなど、指導の工夫により対応します。ただし、これらは「行わなくてもよい」ということを意味するものではなく、年間を通した指導の中で、全教科・全項目を確実に位置付けることが重要です。

※内容の取扱いの根拠については、学習指導要領解説総則編(幼児・小・中)P203～、(高)P118～に示されています。

参考文献

1) 熊本大学教育学部附属特別支援学校(2020)「指導内容確認表」

<https://teachu.educ.kumamoto-u.ac.jp/shidounaiyou/>



2) 宮城県総合教育センター (2021)「知的障害教育のための みやぎ授業づくりガイド」

<https://www.edu-c.pref.miyagi.jp/midori/tokushi/jyugyoudukuri/>



3) 文部科学省 (2018)「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部)」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_4.pdf



4) 文部科学省 (2018)「特別支援学校学習指導要領解説 総則編 (幼稚部・小学部・中学部)」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_3.pdf



5) 文部科学省 (2018)「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部)」

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/02/04/1399950_5.pdf



6) 文部科学省 (2020)「特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料」

https://www.mext.go.jp/content/20200515-mxt_tokubetu01-1386427.pdf



7) 独立行政法人国立特別支援総合研究所 (2016)「知的障害特別支援学級担任のための授業づくりサポートキット すけっと」

https://www.nise.go.jp/nc/study/others/disability_list/intellectual/sk-basket

